



安曇野市

第22号

農業委員会だより

写真の記事

10月堀金の農地にて
タマネギの苗の植え付け
作業中。



● 主な内容 ●

あづみ野農業塾紹介……………	2
鳥獣被害・明科現状報告……………	3
がんばる農業者……………	4～5
農地所有者のみなさまへ……………	6
市長との懇談会報告……………	7
おふくろの味 旬の一句・一首…	8

農政の動き

去る10月5日から6日未明にかけて、台風18号によりリンゴの落下被害が発生し、さらに今後品質低下により被害額が拡大することも予想されます。被害を受けた農家の皆様に、心からお見舞いを申し上げます。

さて、本年4月より施行された、改正農業委員会法により、11月8日に第1回長野県農業委員会大会が伊那市文化会館で開催されました。多くの課題を抱える中で、農業農村の現場の声を農政に反映させるべく、農業振興施策を提案し、農地法の適正な執行と担い手の確保・育成、農地利用集積と遊休農地発生防止・解消等、農地利用の最適化に向けて取り組みを強化し、成果を上げていくことが求められております。このため、農業委員大会では本年度から新たに設置された農地利用最適化推進委員とともに、「人と農地制度」の推進組織としての責務を再確認し、農地利用の最適化推進等に関する決議や農地利用最適化推進等に関する申し合わせ決議の2議案を決定しました。特に、食料自給率向上のための優良農地の集積を進めることで、地域農業を支える集落営農組織等の、農業者の負担に応え、活力ある農村社会の発展に尽くすことを願って大会が終了いたしました。

会長 板花 守夫

発行日/平成28年12月7日
編集と発行/安曇野市農業委員会
安曇野市豊科6000番地
tel 0263(71)2497
農業委員会事務局ホームページアドレス
<http://www.city.azumino.nagano.jp/soshiki/49/23279.html>
申請書、届書のダウンロードができます。

あづみ野農業塾の活動を紹介します



塾長指導のもと、田植え中

あづみ野農業塾 塾長の遊橋さんにお話をお伺いしました。もとは林業の専門家として活躍されていた遊橋塾長。林業職を離れてからは、独学で習得した農業の知識を生かし、旧四賀村のクラインガルテンにて、無農薬の農業を8年間にわたり教えていました。その後「ぜひ地元で農業塾を！」という声を受け、平成15年に旧豊

科町で農村女性学習会の協力を得て、あづみ野農業塾を立ち上げ、平成18年4月からはカリキュラムを整備して本格的に活動を始めました。

無農薬で米作りを

あづみ野農業塾では、当初、「農村の活性化・無農薬の米づくり推進・消費者と農家の交流」を塾の趣旨として掲げ、さまざまなカリキュラムを組んでいました。現在は「無農薬による米作り」を塾の一番の目的に掲げ、活動しています。塾の講座は月1回で、実技は必要に応じ月何回か指導を行います。平成28年度は55名の塾生が活動しており、平成15年の活動から現在まで、およそ800名の卒業生を輩出し、地域農業の発展に貢献してきました。

平成28年度は豊作の年

塾長は、塾でどのような有機肥料を組み合わせ、どのような配分

で使用したかを年度ごとに細かく記録しています。毎年、肥料の組み合わせや量を変えながら、より良い配分を研究しています。こうした長年の研究の結果、平成28年度の米作りでは10aあたり約630kgの米が収穫でき、無農薬米としては異例の大収穫となりました。

今後の活動について

遊橋塾長は、「自分の年齢もあり、塾もそろそろ終わるかと考えている」と述べますが、塾生からは、ぜひ来年も、という声が上がっています。特に、今年の米の収穫結果を踏まえ、「来年も同じ肥料の配分で、同じ結果が得られるようであれば一定の成果として報告を」という声もあります。

長年にわたり地域農業を支え、発展に貢献してきたあづみ野農業塾。今後も地域農業を盛り上げ、大きな活躍を見せてくれそうです。



ハーベスターで脱穀する



はぜかけで乾燥中。機械で乾燥させるよりもおいしいお米ができるとのこと

増加する農作物の鳥獣被害

市内の農作物被害は、東山山麓ではシカ・イノシシ、西山山麓ではサルによる被害が深刻です。鳥獣被害は耕作意欲を低下させ、耕作放棄地の増加にもつながってしまいます。

農家の声

- ・被害に遭っているため鳥獣の駆除や柵の設置を、と声をあげたが、なかなか地元の同意を得られない。非農家の方々にも、被害に遭っている農家の現状を知っていただき、ぜひご理解いただきたい。
- ・荒廃農地をきれいにし、ブドウを栽培できるまでになったが、ほとんどの芽をシカに食べられてしまった。

市の対策は？

- ・侵入防止柵（電気柵・ネット・金網）設置への補助…柵設置に係る資材購入費を2分の1以内で補助（上限10万円）
 - ・侵入防止装置（電子防鳥機など）設置への補助……装置の購入費を3分の1以内で補助（上限8万円）
- 詳しくは安曇野市農政課
(☎0263-71-2429) まで

※いずれも購入前に交付申請手続きが必要です。

農家の方々には市の補助等の活用を、また住民の皆さんにはこうした対策へのご理解をお願いします。



農業委員報告

明科地区東川手における現状と今後について

本年度も安曇野市全体の農地パトロールが始まります。明科地区東川手においては、耕作者の高齢化に伴い、荒廃地が増加しています。

生野地区においては、地域の高齢化や、犀川からの上げ水の費用がかかることが耕作の負担となり、農地が耕作できなくなってしまうという現状があります。また、潮沢地区においては、今まで農地として使用していたものの、人口が減ったことで荒廃農地化してしまった農地があります。

潮池区でも高齢化が進み、農地の貸付希望者が増えていますが、借り手の方からは、「耕作のみ頼まれれば行うが、水の管理などはできない。農地の大きさによっては、借りて耕作することは難しい」という意見が出ました。道路の改良がなされていないため、機械が耕作地に入ることができないことも、こうした意見が出る要因の一つです。

借り手を見つけ、遊休・荒廃農地を解消すべく活動していますが、こうした難しい状況にあり、今後の対応に苦慮しております。

明科 伊藤重徳 委員

がんばる農業者



細田 直稔さん

(三郷 七日市場地区)

有限会社 細田農産 取締役

経営面積等

水稲	22ha
大豆	15ha
小麦	12ha
ソバ	14ha
アスパラガス	50a

- Q** 現在、細田さんは「有限会社細田農産」の取締役にされていますが、農業をはじめたきっかけは何ですか？
- A** ずっと農業をやっている父の姿を見て育ったので、自然とこの道を選びました。大学でも農学部で学び、卒業後は後継者として農業に携わるようになりました。
- Q** 農業経営を行う中で大変なのはどんなことですか？
- A** いろいろありますが、苦勞することの一つとして、農作業用機械の知識・技能の習得が挙げられます。大学や研修の期間にぜひ身につけておきたかったなと感じています。農作業のノウハウを身に着けるのはもちろんのこと、新しい機械の操作や、機械トラブルにも対応できるように勉強が必要です。



鯉農法に用いた鯉。動物に食べられてしまうという問題もある

- Q** 現在取り組んでいることを教えてください
- A** 鯉農法による無農薬米の栽培に取り組んでいます。ただ、無農薬米はニーズが多いのですが、雑草の管理が難しく、普通の米の3倍は手間がかかることから、あまり多くは作れません。消費者ニーズに柔軟に対応できるよう、バランスを考え



細田農産のシール

- いろいろな米を栽培しています。
- Q** (有)細田農産の目標は何でしょうか？
- A** 安曇野の水田を守っていくことです。細田農産では、水稲・大豆・小麦・ソバ、また昨年からアスパラガスの栽培も始めました。地元の皆様から多くの農地をお借りし、耕作することができています。
- そうした農地、特に、水田を守ることには綺麗な水を守ることにつながり、ひいては美しい安曇野の風景を守ることにつながると思っています。
- Q** では、最後に地域のみなさんへメッセージをお願いします
- A** 安曇野のみなさんに、ぜひおいしい安曇野の米を食べてほしいと思います。そのためには、市とJAも一体となって協力し、米の「ブランド化」を進めていくことを願います。
- 地域全体がそうした盛り上がりを見せられるよう、私共も、今後も精一杯活動していきます。



がんばる農業者



鈴木浩哉・かおりさん

農園名：季来里ふぁーむ・すずき

(HP : www.kirari-f.com)

経営面積等

ワイン葡萄…………… 130a

生食葡萄…………… 50a



開墾前の荒廃農地の様子



再生作業の様子

Q 就農のきっかけはなんですか？

A 神奈川県出身で、大学卒業後12年間サラリーマンをやっていました。「自然と接することのできる暮らしや仕事したい」と考えるようになり、平成16年4月に、神奈川県から夫婦で長野県に移住し生食葡萄農家になりました。

Q 安曇野市ではどんな活動をしていますか？

A 「明科地域の農業を守る会」に所属させていただいております。明科上押野天王原荒廃農地再生事業において、平成27年10月に第二番目の耕作者として選定していただき、「ワイン葡萄」を栽培します。

Q 苦労したのはどんなことですか？

A 明科上押野天王原地区約15haは、かつて地域を支えた桑畑でしたが、養蚕が衰退し、荒廃農地となっていました。

この荒廃農地の再生作業には、地権者の方々、安曇野市農業委員の方々、南安曇農業高校の生徒さん、安曇野市役所の方々、明科地域の農業を守る会の方々、私達夫婦を応援してくれる方々など多くの方のお力添えをいただきました。冬の寒い時期の株や石、根っこ拾い作業は、気の遠くなるような作業でしたが、多くの方々のご協力

により再生作業が進みました。心より感謝しております。

Q やりがいを教えてください

A 「北アルプスの見える場所でワイン葡萄を作りたい！」と思っていた私達は、天王原に初めて訪れ

た時、そこからの北アルプスの眺めがあまりにも素晴らしくとても感動したと同時に、この地に一目惚れしました。夫婦で良いワイン葡萄を栽培し、ワイナリーや地域の方々との連携をはかり、日本や世界に「安曇野のワイン」を認知してもらえるように力を注ぎ、県内外の多くの方々に足を運んでいただける魅力ある地にしていきたいと思っています。

Q 今後の目標を教えてください

A 農園名を「季来里ふぁーむ・すずき」と名づけ、平成16年から心に残る葡萄を作るという信念のもと、夫婦で約12年間生食葡萄農家をやってきました。今後は、安曇野市明科にて栽培スタートするワイン葡萄においても、心に残る葡萄、心に残るワインを作り、将来的にはワイナリーとの契約栽培に加え、夫婦で小さなワイナリーの設立を考えています。

今後、地域のみなさんと連携し「季来里ふぁーむ・すずき」の名前の由来「季節をとおして、ふと来てみたくなる、ふる里のような場所」をこの明科上押野天王原地区でも作り上げていきたいです。これからも謙虚な気持ちと素直な心を忘れず、地域のみなさんに愛されるよう努力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願ひ致します。

農地所有者のみなさまへ

今年も農地パトロールが始まります！

農業委員会は、毎年1回地域内の全農地の利用状況を調査するため、農地パトロールを実施しています。

農地パトロールにより、「遊休農地」と「遊休化のおそれのある農地」を把握した場合には、その農地の所有者の方を対象に「利用意向調査」等を行います。

・耕作者がどうしても見つからず、また自分で維持管理することも難しいため遊休農地になってしまった・・・など、所有者の方にも色々な事情があります。

万が一遊休農地になってしまった場合は、農業委員会からの意向確認にきちんと意向を表明（自分で耕作する・貸したい等）するようお願いします。

農地は一度荒れてしまうと、他の耕作者へ貸し付けることも困難となり、農地への復元作業に大変な費用と労力を要します。耕作者が見つかるまでは**必ず保全管理をしていただくようお願い**
します。

市長と農業委員の懇談会が開かれました

10月4日（火）、安曇野市役所において、市長と農業委員会八役（会長・会長代理・副会長、各地域長）との懇談会が開かれ、意見が交わされました。委員からは、各地域農業が抱える課題について市の対応を求める意見や、新条例に関する確認・要望等が挙げられました。

意見・要望

- 豊科地域……効率アップのためのインフラ整備／より強力なブランド推進
- 穂高地域……穂高山麓の松枯れ対策／鳥獣被害への対策
- 三郷地域……畜産農家の臭気対策の現状と今後について
- 堀金地域……農地所有者の高齢化・未相続に伴う遊休農地増加への対応／耕作者の畔草管理の負担軽減策について
- 明科地域……東山山麓の荒廃農地解消に向けた取り組みへの補助について（来年度補助金・鳥獣被害防止・治山治水）

- その他……地域経済活性化を図る「産業振興条例」について現行の振興条例を廃止して新たに作る条例なので、よりよいものになるよう、調整・修正をしっかりと行ってほしい。



農業者年金

入って安心

収入が不安定で将来が心配…そんな方へ

◆農家であれば誰でも加入できる！

◆国から保険料補助が受けられる加入区分もあります

これから加入すると将来どのくらいもらえるのか、簡単に試算できます。

お近くのJA、もしくは農業委員会事務局までお問い合わせください。

全国農業新聞

を購読してみませんか

（月4回金曜日発行 B3版10～14頁建 購読料：月700円 [送料、税込み]）

全国農業新聞は経営とくらしに役立つ農業総合専門紙として高い評価を受けています。

・・・お申し込みは農業委員会事務局まで・・・

おふくろの味

とっ辛みそ(唐辛子の麴醤油煮)

材料

唐辛子(青唐辛子・バナナピーマン)...	1 kg
米麴	1 kg
醤油	1.8 l
砂糖(ザラメ)	1 kg
みりん	100 cc



作り方

- ① 醤油を約40℃に温め、米麴をほぐし入れる。柔らかくなるまで保温状態を保つ。(15から20時間程)
- ② ①に、ザラメ・みりんを入れ30分程煮る。
- ③ 唐辛子の種を取り除き、フードプロセッサーで細かくする。※必ずゴム手袋を使うこと
- ④ ②に、③を入れ約30分程度煮る。
- ⑤ 保存ビンに入れ、完成。

アドバイス

品種により唐辛子の辛さが異なります。600gから作り始め、好みの辛さに調整してください。砂糖の量についても、好みで調整してください。我が家は甘党なので1.2kgです。

今回は、「猿に食害されない作物・電気柵を必要としない作物」を探るために栽培した唐辛子を使用しました。トウモロコシの横に唐辛子を植えたところ、猿の好物であるトウモロコシは全滅、唐辛子は噛んだ形跡はあるものの被害はありませんでした。

副会長 矢野口隆三

旬の一句・一首

もちひかり

学校田の 稲をこく

豊科 中島 義朋 委員

猿を追ふ

石を手許に 大豆干す

穂高 野口 和男さん

お菜洗ひ

くちかず減りて 悴む手

三郷 松澤 ちる子さん

萩の花

小路をふさぎなだれ咲く

花かいくぐり二歩また三歩と

堀金 丸山 千里さん

色づきし 稗に朝あき

鶉の来てこぼせし実あまた

地に落ち居たる

明科短歌同好会 矢花 弘子さん

野分後 憐れな姿 傷りんご
思い出さるる あの破れた恋

匿名希望

編集後記

「安曇野市農業委員会だより」も第5期農業委員会が発足してから今回で3回目の発行になります。編集委員の1員になって今更ながら思うのは、「委員会だより」発行に至るまでには農業に携わる多くの方々のご協力が欠かせないということです。農業について皆様それぞれが感じる想いや意見、取り上げて欲しい話題、あるいは「便り」の表紙にふさわしい写真などがありましたら是非、地域の編集委員が事務局にお声掛けいただければと思います。

紙面を構成する「がんばる農業者」については、原稿を書くのが負担になってはいけないということで、事務局の提案により第21号からはインタビュー形式をとり、取材時間も農業者の都合に合わせるようにしました。近所や知り合いに意欲ある農業者がいらっしゃいましたらご紹介いただければ幸いです。

また「旬の一句・一首」については委員の方以外に、読者に親しみをもっていただけるようにと俳句短歌愛好家の皆様にもご投稿いただいております。

これから委員の任期が終わるまであと3回発行する予定です。楽しく充実した紙面になるよう改めて皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

高橋 茂 委員